

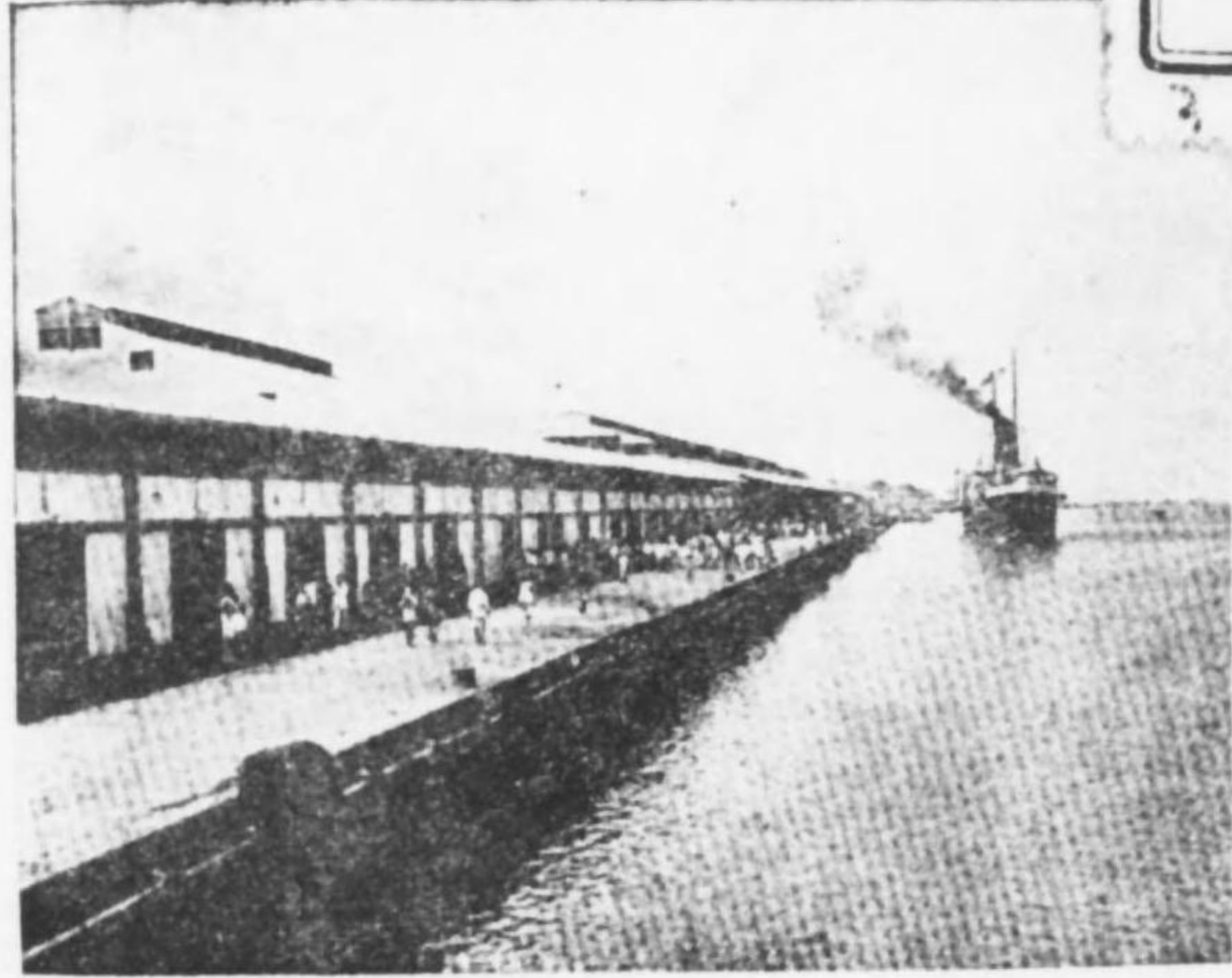
セ
レ
ベ
ス
(南洋叢書 第三三卷)

14.5-80



1200700356664

2



マカッサル港岸壁

南洋協會臺灣支部

始



一、本書は英國外務省が平和會議に臨まんとする代表員の
參考資料とせんが爲め、一九一七年の春特に一課を新設
し専ら之が編纂に當らしめたるものなるが、所說的確簡
潔にしてセレベスの情勢を知らんと欲する者の爲めに
便益なるべきを以て之を譯出することとせり。

一、本書は閱覽の便に資せんが爲め筆寫に代ゆるに印刷を
以てしたるに過ぎずして敢て公刊したるものにあらず。

大正十二年十一月二十日

南洋協會臺灣支部

セレベス

目次

第一 地文及政治地理	一頁
一 位置及廣袤	一
二 表地 海岸 河湖	一
三 氣候	五
四 衛生	六
五 人種及言語	七
六 人口	八
分布 都市及村落 移動	
第二 政治史	一一
年代記摘要	
歴史概説	一三
目次	

目次

第三 社會及政治的狀態

・武裝遠征・スハールマン・對土著主權者條約・タリナテの略取・一八二五年の條約・ボニーの叛亂

一 宗教……………一三

二 政治……………一三

三 教育……………一四

第四 交通

一 島内……………一四

(イ) 道路

(ロ) 河川其他

(ハ) 鐵道

(ニ) 郵便電信

二 島外……………一六

(イ) 錨地 港灣

(ロ) 海運航路

(ハ) 海底及無線電信

第五 産業

一 勞働……………一三

二 農業……………一三

(イ) 商業的有價産物

穀類 珈琲 コブラ 棉 カホツク 護謨 砂糖及煙草 生畜

(ハ) 耕作の方法

(ニ) 林業

(ロ) 土地享有

三 漁業……………二七

四 鑛業……………二七

五 製造業……………二八

第六 商業

一 對内……………二九

(イ) 商業の主要分類

(ロ) 貿易通商改善の機關

(ハ) 外人事業

二 對外……………三二

(イ) 輸出

數量及價額

仕向國

目次

目次

(口) 輸入 數量及價額

仕出地

第七 財政

- 一 領土財政……………三三
- 二 銀行……………三四

第八 總說

- セレベス關聯諸島……………三五

サンギ諸島 タラウル諸島 スキルドバツト諸島 マンガイ群島 スーラ諸島
 セレベス東南半島沖諸島 サライール島 スヘルムンド群島

- 參考書目……………四一

セレベス

第一 地文及政治地理

一 位置及廣袤

セレベス島は北緯一度五〇分、南緯五度四五分の間に擴がり、ウヰリアム岬に近接したる其西端は東經凡そ一一八度四九分、又其東端リムベ海峡は同じく一二五度一五分に方れり。本島は長程大凡八〇〇哩にして、全面積約七一、四〇〇平方哩なり。島の延長は、幅員の概ね三六乃至一二〇哩にして而かも最狭僅々一八哩の地點あるに之を比すれば頗る權衡を失せりと謂ふべし。

本島の政治的境界は地理的區劃と符合せず。セレベス及び屬地の政廳はスムバワ島及びフロレスの西方部分及び更に其間介在の島嶼を抱有す。然るに東部セレベスには所々ターナテ州の管區に含まるゝものあり、故に公報的計數を取扱ふ場合には當該政治的區劃の應々にして地理的地域と合致せざることあるを留意するを要す。

二 表地 海岸 河湖

表。地。

第一 地文及政治地理

セレベス島の形状は古代の活字に見るK字に之を較ぶるを得べし。島名の複數辭形たるを以て觀るも往時は之を數箇の島嶼と見做したるもの、如し。島の脊骨より長形なる三箇の半島突出し、各北東、東及南東に走り就中北東に出づるもの最も長し。全島山嶽多くして、南端に聳ふる *Pitang* 山、又中央に屹立せる *Koruwé* 山の如きは高度一〇、〇〇〇呎以上に達す。東北及び南端に於ける諸山は火山質にして、東北端ミナハサ地方には硫氣坑及び温泉多し。

本島の南北に走れる山脈の内、南方には二箇の平行山脈ありて、中間谷地を懐く、是れ即ち *Tempé* 湖に注げる *Wallanae* (*Wallina*) 河の盆地を形成するものなり。西方の山脈は *Butan* 諸山の大量團に至りて止み、東方山脈は *Salar* 海峡を渡りて *Salar* (*Salejar*, *Salarjar*) 島に續及す。西方山脈と海との間には幅員七乃至三〇哩に及べる沖積層の海岸平野あれども、本島全體に亘りては沖積層地頗る少なし。本島中央一廓の北方に於ては山嶽の高程稍低く且つ一連の山脈あるのみ。同中央一帯の西部には中間に高原を有せる數箇の連山ありて、皆平行線を畫して *Mandar* 岬に走下せり。

Dondo 岬に於ては連山の方向轉換す。北東の半島は先づ西より東に走り、二百哩以上同一方向を續けたる後、北東に轉回し、以てミナハサの火山地帯となる。是れ即ち本島に於ける山嶽最多の箇所にして、就中其東北端の最高所たる *Kalabat* 山は六、五六〇呎に達せり。同地域に於ける火山の活動は地味を肥沃ならしむるに一大効果ありて、森林一様に鬱葱として繁茂す。

東方及び南東の海角に於ては山嶽ありて半圓を畫き *Paling* 島より *Buton* 島に及べり。中にも南西の海角は南半島に酷似の特性を有し、兩沿岸に平行したる山脈ありて、海濱に沿ふて展開せる稍廣濶なる沼澤を伴へり。

東半島は地勢詳ならざれども、南東半島と大差なきもの、如し。南岸に沿ふて高程八、〇〇〇呎以上の *Tokalia* (*Toekala*) 連山あり。

本島は概ね森林を以て蔽はれ、殊に *Tolo* 灣の周圍に於て密なり。植物の生育遙に山腹に及び谷地は極めて沃土に富む。

海。岸。

セレベスは其環海頗る深くして、淺きはマカッサ海峽の南部に唯一箇所あるのみ。沿岸は概して危険なりと謂ふべし。蓋し珊瑚礁簇生し且つ暗礁及び砂洲多きを以てなり。

本島には三大灣あり、即ち東北及び東兩半島間の *Tonini* (又は *Gorontalo*)、東及び東南兩半島間の *Tolo* (又は *Tomaiiki*) 又東南及び南兩半島間の *Boni* 灣等にして、爲めに本島の海岸線は二、〇〇〇哩を超ゆ。

山嶽皆海に近く、濱海の平野は地帯狹隘なるを常とすれども、中に廣濶なるものあり。即ち *Poni* 灣頭 *Luwu* の附近、*Makassar* の近隣及び *Sinjai* 附近 *Tangka* 河の平原等はなり。

暗礁と淺瀬の多きは沿岸貿易の爲めに一大障礙たらずんばならず。

河。湖。

セレベスの河川は殆んど重要ならずして、從來其流程に關しては幾多誇張の報告を傳へたり。流勢急にして落下亦大なり。瀑布急流甚だ繁く、其最も名あるは Tondano 河なるべし。流程の稍長きは縦に流るゝ河川のみにして、此等は皆或は Opa 沼湖其他の如き奥地流域の盆地に集下し、又或は山脈を横斷して直角に轉開するもあり。Tempe 湖に注げる Taurana 河及び先づ Koro と稱へて北方に流れたる後西方に轉じてマカッサ―海峽に達せる Larian 河は後者の種類に屬す。他の諸河は Palu 河の如く南北の江灣に流入す。

湖水は平行山脈の間に在る谷地一帯に多し。Minahasa には Tondano 湖(海拔二、〇〇〇呎)ありて延長九哩幅員三哩なり。新たに發見したる Iilo 湖は單に Poigar 河の延長に外ならず。ゴロンタローには Jimboto, Batudaka, 及び Kolano Sawu の諸湖あり。本島の中央に Lindu 湖ありて、Gumbasa 河を経てバル―灣に注ぐ。更に南に方り同谷地に Tempe 及び Sidemrang の二湖ありて、共に乾燥季節風期間中殆んど涸渴し、稻及び玉蜀黍の栽培地帯と成る。東部には本島主要の湖水即ち Posso, Matana, 及び Towuti の諸湖ありて皆甚だ深し。其南には Opa 湖の沼澤あり。

三 氣 候

セレベスは炎熱甚だしくして、赤道地帯の降雨伴へり。然るに土地は何處も海を距ること遠からざるが故に海軟風ありて涼し。降雨強烈なるに拘らず、本島はボルネオの如き過度の濕氣を發生する沼地を有せず、蓋し土地に勻配ありて雨水の排泄速なればなり。

温度は概ね華氏七七度(攝氏二五度)乃至華氏八〇度(攝氏二六・六度)の間を上下し、極暑凡そ華氏九〇度(攝氏三二度)及び華氏七〇度(攝氏二二度)なり。唯高山に於てのみ夜間華氏五四、五度(攝氏一二度)に降下することあり。

セレベスは季節風の影響を受く、隨つて赤道の南北各々季節異なる。赤道以南に季節東風(風位東北東南間)の到るは四月より十月までとし、季節西風(風位西北西南間)は十月より四月に及べり。赤道以北の季節風位は四月より九月までは西北にして、爾餘の諸月は東北なるを常とす。南方に雨季の到れるは十二月なるが、季節風の頂點は一月なり。北方にては風力強烈ならず、又季節の限界劃明を缺き、且つ降雨は一年を通じて分布均等なり。東西兩海岸の氣候及び季節風の時期も亦或る程度までは各々相異なれり。由來本島は頗る有利の位置にあり、蓋し季節西風の猛威はスマトラ及びボルネオ兩島の隣接によりて之を阻絶し、且つ濠洲より到れる東南の熱風は本島の南部及び東南の

兩半島に於てのみ之を感ずるに過ぎざればなり。

マカッサは定時に雨乾兩期を有す。ミナハサに於ては降雨の分布均等にして、偶々旱魃に逢ふことあれども、國土は四時絶えず清緑の觀を呈す。マカッサに於ける年度平均の降雨は一二六・五吋（二九六糎）、最乾燥月は八月（〇・四吋一糎）、又最濕潤なるは一月（一八・一時一四一糎）なり。メナドに於ける平均降雨は一〇五・四吋（二六七糎）、最乾九月（三・三吋一糎）、最濕一月（一八・一時一四一糎）なり。同一の半島内たるも山脈の南方ゴロンタロに到れば、状態甚だ異り、降雨僅に四七吋（一一九糎）なり。更にメナドは八、九兩月乾燥なるを常とし、ケマは諸山の他側に在りて其頃には雨多し。

四 衛生

セレベスに於ける健康状態は概して世評良好にして、蘭領印度四大島中最健康地なりと稱す。中にもメナドを以て最良とし、傳染病の如きは殆ど之を見ず、炎熱亦海軟風の緩和する所となりて夜間涼快なり。位置低くして平なれども、マカッサも亦健康地なるが、更にカンダリ灣亦氣候佳良なり。然しながらゴロンタロは不健康の位置にありて、熱病の勃發絶ゆる時なし。沼地熱及び赤痢は島内殊に中央に於ては之を見ることなれども、ボツソー湖附近には呼吸器病稀ならず。本島に於て知ら

る、諸病の中には腦膜炎及び脚氣あり、虎列刺も亦諸處に時を定めて發生す。一九一四年 *Difteria* に悪性劇烈なるマラリヤの突發を見たり。*Typhoid* に於てはマラリヤ屢々發生し、悪性熱病沿岸一帯に流行す。

五 人種及言語

本島住民最古の種族は *Tolaks* 族によりて代表せらるゝものと假定せるも、是れ果して眞に土著の人種たるべきや否や明瞭ならず。中央セレベスの南部 *Lainojong* 山附近に住せるトアラ族及び東南半島の *Tokas* 並に *Tommas* 族は所謂トアラ種族の部類と見做さるゝも、蓋しトケア族は寧ろ *Tokas* 血種の多混を有するものゝ如し。トアラ及びトムナ人は頗る短軀にして、隣接の種族よりは色甚だ黒く、特有の言語を用ふ。

セレベスの他土著住民は馬來多島族の部類にして、其多くは中央セレベスの西部に住せる土民の屬名即ちトラヂヤなる集合名稱に依りて知らる。廣義の意味に於けるトラヂヤ族は即ち中央部、東部及び東南部セレベスに住居し、沿岸一帯に於ては人種自ら混交たるを免かれず。

北端ミナハサ人は伶俐の種族にして啓發の可能性を有す。同族は他住民と全然趣を異にし、或は爪哇人若くは歐洲人の血統を有するものゝ如く假定せらる。蘭領東印度他諸島民に比し皮膚色白く、且

つ概してセレベスの他住民よりは長身強健なり。斯くてセレベスには更に多岐なる *Danians* 族と共に大別四種族ありて、*Sandakan* 諸島の住民と密接に近似す。

諸他の島民は即ち真正にトラチャ族の部属たる *Coontakago* 人及び *Mandaur* 人、又殆ど互に親縁あり且つ或は印度人化せる爪哇人と接觸せるトラチャ族の傳統たる *Buginese* (Bugi) 人及び *Makassar* 人なり。マカッサ人は南半島の西部に於ける廣地帯に住しブギー族は同半島爾餘の地に住居し、尙はセレベス、ボルネオ其他數多の蘭印諸島の沿岸に散在す。後者は殊に商業に熱心なる船乗渡世の種族特有の言語及び習慣を保持して蘭領東印度の諸方面に散居せり。

別に歐洲人、支那人及び亞刺比亞人あり。歐洲人は一般にミナハサ若くはマカッサ附近に居留す。諸種トラチャ族は普通各自特有の言語以外之を話す能はざるも、多數の方言其間に使用せらる。蓋し *Palu* の方言は中央セレベスに於ては通用語として廣く之を用ふ。

六 人 口

分。 布。

前世紀中葉に至るまで其大部分は未探險の儘に之を委したるが爲め、セレベスに於ける人口數に關し精密なる情報を得るは頗る難事と謂はざる可らず。故に人口の推定は概ね憶測たるを免かれず

して、區々大に相異れり。斯くて一九一四年に對する官憲當局の計數によれば全島合計四、七〇〇、〇〇〇とせるも「蘭領東印度叢書」(一九一七年)に掲げたる數は二、七〇〇、〇〇〇人に過ぎず。且つ諸般報告書の更に錯綜せる所以は、即ち多數の場合表示の人口は蘭印政廳の直轄下にある地方のみに限られ、隨つて偶々數字の激増に會することあるも是は出生率の増加に因るにあらずして、土着國の隨時蘭印政廳直轄となれる事實に基因すること等を以て之を知るべし。一九一二年に於ける殆ど推測的數字の示す所によれば、*Sulawesi* を含みたるセレベス廳及屬地には土民一、九六八、七六五、歐洲人一、八〇八、支那人六、〇六四、亞刺比亞人八一八名を有し、合計一、九七七、四五五。*Sulawesi* 及び *Talanda* 諸島を含みたるメナド州には、土民六九一、一〇二、歐洲人一、二二〇、支那人六、六五七、亞刺比亞人一、二六二及び他東洋人五名を有し合計七〇〇、二三六等の人口なりき。一九一三年英國人は三名に過ぎざるも、獨逸人は約五〇名の在留者を見たり。

國土の三分の二は殆んど無人の地にして、人口の分布甚だ不均等なり。住民の最多なるはミナハサなるが其數二〇〇、〇〇〇にして、一平方哩に對し一・六二人の割合なり。又サライール島の人口は七五、〇〇〇と稱し、ミナハサの密度に比し二倍強なり。海岸地帯には住民可なり繁けれども、島の中央に於ては所々に小植民地ありて山岳森林等によりて之を阻隔す。和蘭直轄の地域に於ける人口の平均率(一九〇五年)はセレベス廳の一平方哩に付一八人及びメナド州の一五・八人なりしが、全島

に亘れる一平方哩の平均密度はセレベス廳の四及びメナド州の一・五乃至二なりと謂ふ。

都市及村落

本島には内容外觀之を都市と稱すべきものなく、會々在るも其は殆んど悉く兩極端なり。最大なるはマカッサル（人口二六、一四六即ち土民二〇、一七八、歐洲人一、〇六〇、支那人四、六七二）亞刺比亞人一四一、他東洋人九五）にして、一八四八年より一九〇六年までは自由港なりき。

他都邑はメナド（人口一〇、三二九即ち土民六、六六九、歐洲人五七六、支那人二、七八四、亞刺比亞人三〇〇）即同名州の主都なり。ミナハサのトンダノ（人口一〇、六三〇即ち土民一〇、三二九、歐洲人三五支那人二六六）。トミニ灣のゴロンタロ（人口六、三五二）。農業地方の港たるパンタン即ボンタイン。ポニ灣の西岸にあるシンヂヤイ（人口三、七七九）。北半島のアムーラン（人口二、九四五）。パルイ灣のドンガラ、繁華なるトムブーク（又はサキータ）。トモリ灣のコンデール。及びケマ即ち風位の關係上メナド港の不便なる場合其代用港となる、等是れなり。

（註 都市人口は凡て一九〇五年の國勢調査による）

移動

一九一二年及び一九〇五年兩年の公報統計比較は其用を爲さず、蓋し推算の基準相異なるが故なり。即ち一九〇五年の數字には同年に土民政府の管轄下にありたる地域を含みたるに、一九〇〇年及び

一九〇五年の間にセレベス廳の土民人口は凡そ四〇、〇〇〇の減少を見、メナド州に於ては同人口五、〇〇〇の増加を見たるが如き奇觀を示せり。

産兒率低少の主因は早婚と又林産物採集に従ふ場合男子の不在勝なるとにあり。首狩も亦人口の減少上悲惨なる影響を與へたるや論なし。然れども和蘭政廳の取締法ありて漸次大に事態の善化を見るに至れり。

第二 政治史

年代記摘要

- 一五二二年 マカッサルに於ける最初の葡國人植民地
- 一五六三年 葡國僧侶のメナド上陸
- 一六六六年 コーネリス・スベールマンの對マカッサル遠征によれる和蘭の主權設定
- 一六六七―六九年 和蘭の對諸土民主權者條約の締結
- 一六八一年 和蘭のミナハサ征服
- 一七〇二年 メナド附近舊葡國屯所の所在地にアムスターダム要塞の建設
- 一八二五年 和蘭宗主權の確定

一九〇四年 對ゴソ遠征によりて南方セレベス終局の平定隸屬

歴史概説

凡そ十七世紀の中葉蘭人初てセレベスに上陸したるとき、葡國人は既にマカッサ州と盛んに貿易を行ひ、且つ土王をして新來者に對し敵意を挾ましむることの痛烈なる、後者の將に安全に定住し得んとするに先だち、和蘭東印度會社は數回の武装的遠征を斷行するの止むなき程なりき。此等遠征の最後にして且つ最も成功したるものは一六六六年コーネリス・スペールマンの卒むたる遠征軍なりしが、其の土王征服たるや間然する所なく、而かも爾後一六六七年六八年及び六九九年に亘りて南方セレベス他主權者の多數と幾多條約の締結相繼ぎ、斯くて形成せられたる同盟は以てマカッサーとの好權衡なりとして重要視さるゝに至れり。

一六八一年に至り、當時北部セレベスの諸小國に勢威を振ひたるターナテの土王サレタン亦和蘭東印會社の敗る所となり随つて會社はハルマヘイラ島と共にターナテ及び東北部セレベス(ミナハサ)を占取し、且つ一七〇二年メナド市附近に要塞を築造したり。

十九世紀の初頭、和蘭版圖に於ける英國の一時的占據を撤廢するに至りたる際、總て一六六七年、一六六八年及び一六六九年の諸條約に關係ある地方の主權者皆マカッサーに參集し、彼の一八二五年

の修正協約を結び、是れに依りて其同盟の存續竝に和蘭の宗主權を確認せり。然れども ボニー 國は其屬地 マカッサ 及び スベ と共に反抗し、斯くて一八二五年末此等三者は一旦悉く之を鎮壓せるも、ボニー新たに亂れ一八六〇年に至るも未だ全く征服を見ず、降つて一九〇四年の近時に至りマカッサー附近ゴソに對し遠征軍を特派するの必要を見たり。

第三 社會及政治的狀態

一 宗 教

アラブ 人の多數は耶蘇教徒たれどもトラヂャ族は概ね偶像教徒なり。少數の例外を除き、ミナハサ人は耶蘇信徒なるが、新教々徒の數遙かに羅馬教々徒に超ゆ。ブキン人及びマカッサー人は回教信徒たれども濃厚なる偶像崇拜の色彩を帶べり。

二 政 治

ゴロンタローの一區分たる北方ミナハサ地方、及びマカッサー附近に於ける一小面積のみ和蘭政廳の直轄する所たり。セレベス及び屬地の政廳は其位置をマカッサーに有し、セレベスの南部全體竝

に其沿岸附近、就中住民多くして肥沃なるサライルを以て最要とせる數多の島嶼を包括す。メナド州はセレベスの北部全體及び其中央の一部を含む。東方セレベスの一部は猶ほターナテ州に之を含めたりと雖も、經濟上重要ならず。爾餘其土著主権者との細目に亘れる政治的約款の下に管治せらるゝ東南部セレベス「ライクワイ」の他方を除けば、セレベスの全部は和蘭政府に對し所謂「短文宣言」として知られたる恭順的盟約を結びたる土着酋長の治下にあり。

三 教 育

外領地に於ける教育の情況に關しては本叢書第三十一卷「スマトラ」に略説せるが如し。

第四 交 通

一 島 内

(イ) 道 路

セレベス島の大部分は探險未だ行はれずして森林之を蔽ふが故に、正則の道路は數箇所地方に存するのみ。然れども政廳は道路開鑿に就ては多大の注意を傾倒せり。マカッサー及びメナドの

附近は河川にチーク材其他の用材を以て橋梁を架設したる幾多幹線良道あり。其外島内他所に於ても亦道路の開設に努め、例へば ワタングポン より ディオン に通ずるものゝ如き、一一、〇〇〇日の法定労働を以て補助し、之れが延長三六哩にして幅員四米突の内中央廣さ一米突は之に舗装を施したり。

(ロ) 河 川 其 他

セレベスの河川は概ね重要ならずして、一般に山間の短河に外ならざれども床底概ね深し。然れども ワラナナ (Wallana) 河は可なりの距離に亘りて土着の舟を以て航行に堪え、ディオン に於ては乾燥期と雖も七呎の水深を有す。又 ラソロ 及び ガタング はセレベスの最長河なるが小舟によりて可航なるのみ。ジェネメジャ は幅稍廣く是亦河口より可なりの距離に亘りて小舟を以て航行し得べし。ポッソ は パルナシ まで土舟によりて航行し得るも、上流は急瀑甚だ多し。ゴコンタロの河川は土舟を以て可航なるは僅に數哩のみ。

島内何れの地點と雖も海岸より甚だ遠からざると、又沿岸到處小舟の泊所に富めると、此の二箇の事實は、兩々相依り自然に海を以て住民交通の常路たらしむ。沿岸多數の小港ありて其間の交通は小舟によりて之を行ふ。此種の標本港とも謂ふべきは ハヂョウ 即ちワツタンボーンの出路にして、同地には各十噸積土著解船一四〇隻を有せり。

(ハ) 鐵 道

セレベスは鐵道を有せざれども、マカッサートとボンタインとを連結するに汽力軌道あり。

(二) 郵便 電信

一九一四年島内には五三の郵便局及び陸上電信九五哩を有したり。マサッカー及びメナドを中
心とする地方の通信設備は稍完全に行はるれども、爾餘の國土は人口極めて稀薄なるを以て廣汎な
る通信機關の必要急ならず。

二 島 外

(一) 錨地 港灣

セレベスの周岸は近く海濱に接して海水概ね深しと雖も殆んど到處之を繞らすに暗礁を以てせる
が故に大船の陸地近接は甚だ危険なり。

マカッサート港は年内季節の如何に別なく錨泊頗る安全なり。港口の水深六〇呎にして、潮水の干満
五呎の差あり。汽船は政廳所屬たる延長約一、六四〇呎の岸壁に於て貨物の積卸を行ふ。別に官有船
船の爲めに留保せる延長凡そ二五〇呎の官有突堤、又更に延長約四五〇呎の亞細亞石油會社に所屬
し且つ同社の船舶専用の一突堤あり。五十八箇年間に亘りて自由港たりし、マカッサートに於ては
一九〇六年八月以降港灣及び碇泊税を賦課するに至れり。

一九一二年政廳は七、五〇〇、〇〇〇盾を以て豫算せる港灣改修費を裁決し、爾後實際の經費は
一九一一年六八、一一六盾、一九一二年四二八、三六六盾、一九一三年一、〇八四、〇五五盾及び一九一四
年一、三二六、〇一六盾なりき。諸設計中には延長一、八〇四呎の岸壁にして低潮時吃水二九¹/₂呎の船
船を繫留し得べきもの、築造を含めたり。一九一四年更に同一延長の岸壁を追設し、一層大型船舶繫
留の爲めに備へんことを計畫起工するに至れり。新岸壁及び舊埠頭との間に凡そ一、〇〇〇呎の區域
を保留し、舢舨溜の築設を計畫したりしが、後に至り更に暴風防止の爲め之を改善することとせり。
斯の如くにして新工事完成の曉には吃水三〇呎の船舶に對し使用し得べき埠頭の延長は三、六〇八
呎に達し、更に七八七呎の擴張を可ならしめ、又吃水二三呎を有する船舶の爲めには一、七二二呎
の埠頭及び舢舨用としては一、一四八呎の岸壁を有することゝなるべく、且つ上屋、貨物置場、諸般
倉庫用の敷地充分ならん。一九一七年十二月船腹缺乏の爲めコブラの滞貨を見たる際の如き、マカッ
サーに於ては約一〇〇、〇〇〇噸の貯蔵を可能ならしめたり。

左表は一九一二年マカッサート港に入りたる外國貿易汽船の國籍及び其數を示す。

國 籍	載 貨		空 船	
	隻 數	噸 數	隻 數	噸 數
英 國	三	九、一九二	四	一五、二六六
和 國	三九四	六五三、〇六四	一二	一九、九一九

第三交 通

獨	逸	七三	一三六、九二八	四	一一、一九〇
合	計	四七〇	七九九、一八四	二〇	四六、三七五

一九一四年には六四八船の入港するありて純噸數約九六八、六八三噸なりき。

メナドには繫船壁若くは埠頭の施設なくして、船舶は總て解船によりて荷役を行ふ。海濱より凡そ一〇〇碼を距て、海底俄かに傾斜し、深程七尋より二〇尋以上に増進す。當港は西方に向つて暴露し、Buntと稱ふる強烈なる西南風の到るや波濤甚だ高く爲めに汽船は船尾の錨繫を行ひ且つ汽力を常備し急速半時間の豫告を以て出港するの用意なかるべからず。荷役に使用の解船は甚だ小且つ舊式なるが、蓋しメナド河口の淺洲は大潮低水時深水僅に一呎内外に過ぎざるため常に危険ありて解船の改良を妨ぐ。メナドの海濱に於ける施設も亦依然として古來の儘なり。好天氣の際解船は淺洲の外方にある傾斜の濱邊に荷卸を行ひたる上、苦力ありて貨物を運搬し、荒天の折には解船は河を上り、粗惡にして傾斜せる玄武岩岸壁に荷卸を行ふ。貨物の輸出に際しても亦此場所より積出をなす。當地には二箇所の税關あり。

メナド河を運河となし且つ其の上流左岸に三〇〇碼の岸壁築設の計畫あり。河流と河口に所在せる大砂洲は之を浚渫して大潮低水時に一〇呎の水深を有せしめ、又港内に浚渫機を常備するの目論見あり。Maitの季節中港口掩護の爲め二箇の突堤を築設し、以て港内の沈泥を防止せんことを期せり。

支那、日本及び米國との交通上、メナドは香港よりダーウキン港(濠洲)に至るべき直通航路上に在るを以て、マカッサーに比し遙かに中心的位置に當れり。若し港の設備をして航洋船舶の爲めに完からしむるに於ては、メナドは左記の産物に對する一大輸出及び運輸の發展期して待つべし。即ちSangi及びTalur諸島、又ミナハサ北岸沖の小島Talisよりコブラ、Amurang, Kwandang其他セレベス北岸の諸港よりはコブラ島木及び荳蔻花、ゴロンタロー及びトミニ一灣一帶よりはコブラ籐島木及びダマルゴム、また北方モルツカス及びニウ・ギニアよりは香料等は是れなり。

然るに一面、附近に所在せる諸他の港灣を利用することし港としてのメナドは之を廢棄せんことも亦問題となれり。メナドの東方Dinan岬の彼邊一九哩に方れるKanaは季節の如何を問はず良港たるの資格あり、且つ既に十二月より二月に至る期間中K.P.Mの汽船はメナドを措いて該港に寄航するを例とせり。然れども輒近の報告に據ればケーマは位置不便にして且つ東季節風に際しては高浪に暴露せらるゝの缺點ありと謂ふ。他の對敵たる港は即ち其西南方にあるAmurangにして、メナドに比し遙かに安全の錨地を有せりと謂ふ。斯くて輸出貿易は總て此地に之を移さんとの説も到底之れが實行を見るは難かるべし。

Corontaloは北半島の山嶽多き南海岸の江灣に所在せる平凡の一港地なり。灣の中央には四〇万

至七〇尋の深處あれども、二箇の河流ありて之に多量の砂泥を注げるが故に、場所によりては三呎若くは其以下の水深を有するに過ぎず。灣の東側より、河の中流に沈泥を以て形成したる小島とを連結し一大堰堤を築設し以て港灣改修の提議あり。此計畫成るに至らば河流を水路の西側に局限するを得、解船の泊地と成るべし。此地の山嶽は海濱より峻しく屹立するを以て、貨物の貯藏に充つべき餘地甚だ少なし。同一時に唯一艘の解船に對し、倉庫の闕より道板を架し以て荷役を行ひ得るのみ。税關は頗る不備にして、且つ同所よりゴロンタローに到るべき道路は多大の經費を以て之を開鑿したるものなれども、山崩れの爲め損傷頻發す。假りに如上の障礙なしとするもゴロンタローはメナドの有望なるに若くべくもあらず。然るに労働供給の充分なるは確かに其一利點なり。同地は背後に郷土を有せず、爲めに其輸出品即ち島木、ダマル・ガム及び籐の如きは主として即近の海岸地方より到れり。カボク樹の成育佳良にして有利の産物たり。ゴロンタローよりせるコブラの輸出はメナドの四分の一に達せず。

Doni 即ち其名を本島南方に位する一大江灣と等ふし、同地の輸出品は玉蜀黍、米、美木、ココ椰子、コブラ、鹿角、獸皮、武器、陶器及び木彫品なり。此舊港は其貿易品の多種なるに於てセレベス諸港中の標本とも稱すべけれども、其總價額は謂ふに足らず。

Banahin Singai 及び **Pare Pare** は西南半島に在りて、皆良錨地たり。亦發展せば一重要港たるに至

らん。バルーは長形なる北半島の發端に位し、首部の幅員は一八哩を超えずして、西端バルーと東端バヲギとを連結せん爲め運河開鑿の提議あり。**Donggala** はバルー灣口に位し、其發達速かにして運河開通の曉には重要マカッサと相拮抗するに至るべきを豫想せり。爾餘錨地たるべき江灣數多あり、即ち北海岸の **Kwandang** 及 **Dondo**、西海岸の **Tambu**、**トロ灣**の **Tomori**、**Kendali**、及 **Staring**、**ボニー灣**の **Mengkoka**、**Palopo**、**Usu** 及び **Sopang** 又 **トミニ灣**内 **Posso** 及び **ボニー灣**等是なり。

□ 海運 航路

一九一四年一月KPM汽船會社はスラバヤ及びマカッサ間に毎週一回、但し毎月一回は之をメナドに延長することとして特別航路を開設せり。土民船のマカッサよりスラバヤに至る航海日數は凡そ八日間を要す。戦前には獨濠汽船會社 **Deutsch-Anstliche Dampfschiff-Gesellschaft** 汽船のマカッサに寄航するありて、同地に代理店を有し、多量の貨物積取りを慣行したり。北獨逸ロイドの汽船も亦マカッサに寄航し、同地、メナド及びゴロンタローは代理店を有したり。爪哇支那日本線 **Java-China-Japan Line** 及び太平洋汽船會社 **Ocean Steamship Co.** (**Alfred Holt & Co.**, **Liverpool**) の兩社亦マカッサに代理店を有し、後者は **Nederlandsche Stoomvaart-Maatschappij** **Ocean of Amsterdam** (在アムスターダム、和蘭太平洋汽船會社) に關係あり。日本南太平洋貿易會社 **Japan e South Pacific Trading Company** は所屬發動汽船を以てメナドより日本へコブラの輸送に従ふ。最近日本郵船會社

代表者のメナドを視察せるあり、又一九一七年南洋郵船會社は一九一八年の初めよりメナド定期航海開始に關し日本政府の認可申請中なりき。

(ハ) 海底及無線電信

一八八八年以來マカッサルはバリ島内 *Bali* を經由し爪哇の *Banarukan* と和蘭海底電線を以て連接せられたり。他に和蘭海底線のボルネオ島 *Borneo* よりクワンダン及びメナドに向つて一九〇三年に沈没せられたるものあり。更にクーマ及びターナテ間、又沿岸クーマ及びターナテ間に海底線あり。

無線電信局はマカッサルに之を有す。

第五 産 業

一 勞 働

由來ミナハサ地方に於ては勞働の缺乏最も甚だし。該所の青年は概ね爪哇に渡りて手代となり、若くは兵籍に入るを例とし、女子の數遙かに男子の數に超ゆ。一九一五年三月八日の調査に據ればメナド州に於ける契約苦力の數一、七九五名、即ち爪哇男子一、二六〇、同女子一二〇、及びゴロンタ

ロー人四一五名なり。將來或はゴロンタロー地方に之れが供給を仰ぎ以てメナドの勞働者不足を補ふことを得べし。契約勞働者に關する從業條件に就ては本書姉妹篇たる「スマトラ」に略説せるが如し。農業勞銀低くして、一日十時間に對し約四片の割合に過ぎず。政府は七日毎に一日の割合を以て土民に對し法定勞働要求の權限を有す。

阿片專賣は勞働問題に重要關係を有す。蓋し阿片は支那人の勞力に對しては別段の影響を與へざるが如くなるも土人の之れが使用に耽るや全然風紀を頹敗せしむればなり。專賣は一九〇七年セルベス全體に亘りて之を適用することとなりしが、マカッサルに於ては何れの階級にも其消費を許しメナド及び本島の大部分に於ける土民に對しては絶對に之を禁止す。

二 農 業

(イ) 商業的有價産物

穀類 土民の主要食物は米なるが、栽植方法粗漏にして概して陸稻法によれり。一層の用意と灌漑の善用とを以てせば大に産額を増進し且つ品質を良化するを得ん。玉蜀黍は丘地に又サーゴ椰子は沼澤地域に之を産せり。

珈琲 ミナハサより産出の珈琲は好評ありて、蘭領東印度産中最良種たり。一九一四年同地には

凡そ二、一八〇バウ(三、八一五英町)の珈琲栽培面積を有し、單作混作兩様の方法によれり。

コブラ。本島には若干のコブラを産すれども、其製法優良ならず、北部に於て土民は雜種劣等品の産出を固守せるが爲めミナハサ・コブラは市場に悪評を受く。需要最も多きは日乾のコブラにして本品は上値を齎らす故に、政府は強制的に土民をして舊來の爐火乾燥法を廢棄せしめんことに努めたれども實際上、州長官は之れが干涉を厭へり。事態困難なるはマカッサ―又は爪哇に於けると異なり、ミナハサには實際乾燥期を有せず、爲めにコブラの日光乾燥に適すべき機會甚だ少なきにあり。然れども一面確聞する所によれば *Philippine* にある一和蘭會社は優良なる日乾コブラを製出するを得、且つ若し組織的監督と周到なる取扱を以てせば、ミナハサに於ても必然更に佳良なる品種を産出し得べしと云ふ。

現今(一九一八年)船腹缺乏の爲め紐育及び桑港に對するコブラ輸出の氣配不良なり。一九一七年メナドの倉庫は悉くコブラを以て充滿し、價格低落したるも、諸會社にては買附を繼續しマカッサ―に送貨せる爲め、同年末該地に同品の過滯を見たり。將來の盛衰は主として品質の如何にあるべし。蓋し米國の要せるは唯最良品のみにして劣等雜種は之を顧みざるべければなり。故に若し品質の改善を行ふことを得ば、メナドは單に米國とのみならず、更に歐洲及び日本との間に有望なる該品の貿易を確立し、同時にミナハサ産出の *Klapper* (椰子)油を輸出することを得べし。島國製油會社

Olielabriek Insulinde はメナドに工場設置の計畫に就き考慮中なり。

棉。セレベス、サライール等に於ける棉花栽植は當面優秀なる歐洲綿絲の輸入によりて減滅の狀態に在り。

カボック。南部セレベスの土民はカボック栽植に就ては著大なる精力を示せり、カボック(*Eriodan tron anfractuosum*) 樹は普通蘭領東印度の諸地方に慣行せるが如く路傍若くは胡椒園の支柱として之を植附くるよりは、寧ろ玉蜀黍其他類似の食料作物と共に群植の方法を以てせば發育頗る良好なるものゝ如し。ミナハサには一九一四年同樹植附面積一〇バウを有したりしが、爾來大規模を以て栽植の計畫あり。本産物に對する一大需要地は米國なり。一九一三年マカッサ―に *Manders, Seeman & Co.* の開始したるものと等しき製油工場設置の計畫成るに至らば土民をして其産出せるカボック種實に對し良價格を收得せしむべし。

護謨。一九一四年ヘヴィア (*Hevea Brasiliensis*) を主とせる護謨はメナドに於て六箇所の農園に之が栽植行はれ、専作若くは混植六三五バウ(一、一一一英町)を占めたり。

砂糖及び煙草。の栽植成績良好なり。

生畜。主たる家畜は水牛にして、耕耘に使役し、一頭二磅を以て購ふべし。小なれども強健なる優種の馬ありて多く運搬用に使役し、其價は水牛より稍高し。緬羊及び山羊は稀なり。アルプア人

は豚肉を食すれども、回教信徒のマカッサ人及びブギー人は概ね肉食者なり。山鹿豊富にしてトラチャ人は能く之を狩獵して食用に供せり。

□ 耕作の方法

土民の慣行せる耕作の方法は原始的にして、蘭人の直接監督せざる箇所に於ては單に地表一〇乃至一二吋の深さに之を轉掘せるのみ。會々輕易の犁を用ゆることあれども多くは竹竿を以て土壤を破開するに過ぎず。然れどもミナハサに於ては事態大に改善せられたり。人工的灌漑は發達遲鈍を免かれざれども、技師を任命し専ら全島に對する綿密なる利水計畫を立つることとせり。トラチャ族中には其方法を示されたる箇所に稻の水田栽植を採擇せるものあり。

ハ 林 業

森林にはチーク及びアイフルウツ「いぬしで」豊富にして、且つダマール、及びバデューの如き産脂産油の樹木亦多し。然しながら木材に對しては官憲の監督未だ行届かず、唯漸くムーナ島にチークの官營々林開始せられたるのみ。

ニ 土地享有

本來の制度に據り土地は部落の共有物となす。然し實際に於ては個人之を占有して以て其耕作を繼續せる限り、該土地に對し當人之れが權利を享有す。然るに若し耕作を中絶せば部落の有に復

歸す。其他詳細は本書姉妹篇「爪哇及マドウラ」並に「スマトラ」に之を述べたり。

三 漁 業

漁業はブギー人及びマカッサ人の幾多主要生業中の一にして、漁獲の魚類は概ね地方的に消費し若くは之を商ふ。セレベスの東北サンギ諸島に於ても亦漁業を以て島民多數者の生業となせり。多量の乾魚南部及び東部ホルネオよりセレベスに輸入せられ、同時に亦多少の輸出ありて、一九一三年の輸出數量は殆んど五〇〇米突噸に達したり。セレベスの東岸に行はるゝ眞珠業は多少重要なりとするも濠洲系のセレベス貿易會社は重にアル諸島の附近に主力を注ぎ、隨つて本業に關しては同地方を以て蘭領東印度中の最要地なりと目せらる。

四 鑛 業

石炭 はマカッサ附近及び ラライモヤン Lalimojong 諸山の西方に之を發見したれども、未だ採掘に著手せず。然るに政府は一九一二年以來石炭の存在地として知られたる南方セレベスに於て二箇所の大地積を官營試掘の爲めに保留せり。政府はカーチフ及びスマトラより輸入せる約五、〇〇〇噸の貯炭をマカッサに常備す。

金。今日までの所を以て観るに、セレベスに於ける鑛産物上主たる富源は即ち金なり。所在數多の地方に於て土民によりて古來の方法を以て洗滌採收せられ、又或る地方には往古の地下坑道の發見せらるゝものありて、昔時可なりの大規模を以て金鑛業の行はれたるべきを證示す。メナド州には金鑛特許下附地八箇所あり、就中最要なるは *Paleria* 及び *Totok* に所在し、一九一一年の産金價額各六七、六五〇磅及び五六、六五〇磅に達したり。兩所共に爾來資本金を縮少せりと傳ふ。一九一二年以降政廳は官營金試掘の爲めに *Wassan* に一地方を保留せり。銀は常に金と共に之を産出し、一九〇七年島内總産凡そ三噸を出せり。

銅。はゴロンタロー附近に之を産し、土民其採掘に従ふ錫及びニッケル亦少量に之を採收す。石油の所在は西南半島の北方に於ける *Satang* 谷地及び *Tampa* 湖附近に之を確證したりと雖も、要するにセレベスの鑛物資源は猶まだ概ね未探査の状態にあり。勞働と運輸設備との缺乏は今後尙多年其發展に對する主たる障礙たるべし。

五 製 造 業

政廳の鹽專賣はセレベス若くは其附近の諸島に之を適用せず、従つて普通鹽業は州の南部に於て行はるマカッサラ及びサライル島には鹽田設置せられ、乾燥期（八月より十月に至る）には多數

人之れが爲めの勞務に従事す。同地方産出の鹽はセレベス全島の需給に應ずるのみならずして、モルツカス更に又葡國領ティモール等の大部分に及べり。葡領ティモールは自島内に於て製鹽を行ふ。豐歲南部セレベス及びサライルに於ける産鹽額は平均凡そ五、〇〇〇噸に達し、價格は一擔に對し約七五仙より六盾の大差あり。一九一三年メナド州は（工業用にあらざる）民間消費の爲めに一、二六二噸の鹽を輸入せり。

マカッサラ油は土民によりて *Batu* の種實より抽收するものなるが輸出漸減し、又平素理髮師の販賣せるものには偽造品多し。島内土民の工業を擧ぐれば、即ち小舟の建造、金銀銅鐵冶工、竹及び籐の編細工、木工及び陶業等是なり。

數多の製油工場、精米工場石鹼製造所、製氷及び鑛水工場、製靴工場並に煉瓦工場等あり。

第六 商 業

一 對 内

(1) 商業の主要分類

セレベスの村邑にては殆ど各所にコブラ、籐、蠟、ガム、樹脂、油、獸皮の活氣ある商業行はる。海岸

地の村落にては亦乾魚、海參、及び鼈甲をも商ふ。爪哇に於けると等しく商賈は支那人にして土民は通常物々交換により其物産を賣りて生計を營む。

蘭人の山間地域を其統治下よ置くことゝなるや先づ土民をして其山地に於ける武備の村落を離れ隨所の河畔に設定したる *Kampungs* に居住せしむ。然れば之を管治するに容易なるのみならず亦其土地平低なるが爲めに農作物の成績良好なるを得。新設土村には *Alou-alou* と稱ふる芝生の一小地面を有し之を利用して市場を開く。

(ロ) 貿易通商改善の機關

マカッサル及びメナドには商業會議所あり。共に公設機關にして各五名の議員を以て成り有數の實業家にして皆政廳の任命する所たり。此兩都市には亦商業組合 (*Handelsvereniging*) を有す。

(ハ) 外人事業

歐戰に先つこと十箇年英國の商人は其活動の場面として全くセレベスを閉却せるの觀ありしに、獨逸の諸商社は各港地に地盤を獲得し、且つ名義上和蘭會社を運用し以て輸出入貿易に優勢なる財政的關係を設定したり。剩へ英國製品の如きも英國製造業者の代理店たる獨逸商會を経て概ね之が輸入を行ふを常とせり。今猶は獨逸政府はマカッサルは素よりメナドに於ても副領事を支持せるに英國はマカッサルに之を駐割せしむるのみ。

メナドに對しては將來の中心地として日本人之れに甚大の注意を拂ひ、該地發達の促進に向つては和蘭人の努力と大に相俟つての觀あり。二箇の重要な日本の會社即ち南洋貿易會社及び南太平洋貿易會社は同地に大なる事務所を構え、北部ボルネオに於て廣大なる事業經營の希望を有するもの如し。ミナハサに於ける日人の勢力は堅實に増進し、既にケーマ附近及び其他海岸地帯の所々に好位置を有せるココ椰子農園に對する特許を所有せり。

二 對 外

(イ) 輸 出

數量及び價額 一九一三年に於けるセレベス及び屬地よりせる對外國輸出は凡そ二、三五二、六〇〇磅なりと算定せらるれども、完全にして且つ詳細の統計は之を得るに由なし。

植物產品の輸出には珈琲、コブラ、コバル・ガム、ダマル・ガム、米、玉蜀黍、カヂユプト油、丁香、荳蔻花、肉豆蔻及び藤あり。一九一五年バタビヤに於て公刊したる官報には計數あれども區々にして明確を缺く、即ち或は港市に據り或はセレベス全島の分を擧げ、更に或はセレベス及び屬地の總計を載すればなり。一九一三年マカッサル港よりの輸出數量(價額の數字は未詳)は私營業者の栽培によれる珈琲一、六三〇米突噸、コバル樹脂二、六二二米突噸、ダマル・ガム九一三米突噸、精米六一五米

突噸、カボック五〇三米突噸、荳蔻花九七米突噸、肉豆蔻二四三噸、及び籐一〇、一六一米突噸なり。同年又ダマル・ガムの九八九噸はマリリより、同品七五五噸はゴロンタローより且つ籐二五四一噸も亦後者より之を輸出せり。セレベス及び屬地より玉蜀黍の輸出は七、七一七噸に達したり。一九一三年に於けるコブラ輸出に對する計數は之を得るに由なけれども、一九一四年にはセレベスより三七、二五八米突噸、メナドより三三三、三九八噸の輸出を見たり。荳蔻花のメナドよりしたる一九一三年の輸出は一〇二米突噸なりき。

畜産物には水牛及び牛皮、鹿皮及び鹿角の輸出あり。介殼の輸出貿易亦盛なり。一九一一年眞珠殼の輸出價額一二、六〇〇磅其他 トロカス、グリーン、スニール 殼等三三三、〇〇〇磅、又蠟龜及び鼈甲一五、〇〇〇磅に上り、極樂鳥毛皮の輸出亦重要にして、一九一三年其價額一、二七、三五九磅の巨額を示せり。

仕向國 優良籐の最大購買國は獨逸にして、劣等種の輸出先は香港及び新嘉坡なりき。コバル・ガムの大部分は歐米の市場に積送するに先ち、之を新嘉坡に於て精選するものなり。石鹼製造其他類似業用の爲めに多量のコブラを日本に輸出したるも戦後果して本品の盛況を持続すべきや疑問たらずとせず。南太平洋貿易會社は自社所屬の發動汽船によりて直接日本にコブラを輸入せり。一九一三年に輸出したる鹿角の約八割は蘭獨兩國に向つて輸出せられ、幼若なる鹿角は又支那に之を仕向け藥用及び食餌の爲めに使用せりと謂ふ。尙ほ専ら支那にのみ輸出したる物産は即ち カカオ、胡椒、胡椒、胡椒 なる

る海草なり。由來カボック及び白檀の購買者は和蘭なり。一九一三年極樂鳥皮の海外輸出は九四、八八八枚にして、内六五、一九九は佛國、一三、九四六は英國、七、七〇六は獨逸、及び六、二九六は埃甸國に向けたり。眞珠貝殼は主として佛、英及び合衆國等、トロカス及びグリーン・スニール殼は主として埃甸、佛、及び日本、又蠟龜及び鼈甲は日本、香港及び新嘉坡に送られたり。

(口) 輸 入

數量及び價額 一九一三年セレベス及び屬地への輸入總金額は凡一、六九五、〇〇〇磅なり。其主要品は綿絲布及び安價製品の島内消費に使用せらるゝものにして、英國領事の報告に據れば一九一三年マカッサーに輸入の綿製品三二六、七五四磅、綿絲一六九、七四〇磅、毛製品一、八六一磅なりと謂ふ。米の輸入亦多量に達し、一九一三年セレベス政廳は一六、三二四噸を蘭領東印度以外の諸國より、又メナド州は二〇、四三五噸を輸入せり。

仕出地 メナド州の輸入は重にK・P・M社の船舶によりて輸送せられ、大部分新嘉坡より來る。

第七 財 政

一 領土財政

蘭領東印度の一般財政に就ては本叢書第三〇卷「爪哇及マドゥラ」に叙述せり。

二 銀行

爪哇銀行はメナドには代理店、又マカッサラには支店を有し、後者にはまた香港上海銀行、印度濠洲支那チャタード銀行、印度商業銀行、和蘭商業會社、蘭印エスコムプト會社、及び蘭印商業銀行等の支店あり。従前獨逸商人は和蘭商業會社及び他の和蘭關係の會社より金融上の便宜を受くるを例とせり。戦後マカッサラ及びメナドに獨逸諸銀行の支店設置の計畫あり。

第八 總 說

本來セレベスに潜勢的大富力の存在すべきは毫も之を疑ふに餘地なく、其資源の開発は今後必ず既往に優りて一層速かに進展する所あるべし。輓近商業的努力は特に島の北部に之を集注するの傾向あるが故に、メナド大に其の重要味を加ふるに至らむは蓋し近き將來にあるべし。

然りと雖も特に警戒を要す可き點あり。コブラ産出に關してセレベスの前途有望なるは疑を容れず、加ふるにメナドは香港より濠洲に至る直通航路に方りマカッサラは又馬來群島に於ける中心地點を占據す。されどココ椰子は實際蘭印何れの島たりとも隨所豊かに其成育せることを忘るべからず。随つて現在世人の未だ知らざる箇所にして茲幾年を出でざるに或は俄かに輸出の重要中心地たるべ

きやも測るべからず。近時の如く發動機利用運輸機關の激増を以てせば、久しからずして空中輸送發達の可能性は當諸島の開發上有力なる要素たるべく、延いては之れが結果として那邊に向つて貿易の要路を轉換するに至るべきか未だ俄かに逆睹を許さざるものあらん。

セレベス關聯諸島

サンギ諸島 Sangi

サンギ(又はサンキルと呼ぶ)諸島はミンダナオに其方向を取りてセレベスの東北方に連り、兩側には多大の深海を有せる火山帶上狹長なる山脈を成して崛起す。島嶼悉く火山質なれども輓近の珊瑚積層を以て總附けらる。火山中には今猶ほ近世(一八九二年其他)多慘の爆發を演出したるサンギのアプー山及びタングランダンの西方ルアン島の如き活火山あり。同諸島の最要なるは Sangi, Siau 及 Tangulandang なり。サンギ(延長二七哩幅員九乃至一七哩)は約三〇〇平方哩の面積を有し、北方は多山なれども南方は唯中庸なる高度に達するのみにて、海岸は概ね急峻なり。シアウは遍く耕作せられ肉荳蔻及びココ椰子の農園を有せり。農作及び漁業以外、主たる産業は コブラ と稱し馬尼刺麻に似たる纖維を野生蕉樹より採收して婦女によりて織製せらるゝものなり。土地火山性なるが故に兩島共に特に肥沃なり。タングランダンは凡そ二、五〇〇呎の二峯を有し、島は此等の

山嶽より西方に傾斜す。其主たる産業は小舟建造なるが、木材は諸島何れにも皆豊富なり。

サンギの人口は約四五、〇〇〇にして概ね耶蘇教徒なるが、シアウは二四、〇〇〇、内八、〇〇〇は耶蘇教徒とし、タングランタンは僅に六、〇〇〇中約半数は即ち耶蘇教徒なり。

主要港はサンギー島の *Tanina* なるが、定期にKPM社の汽船寄航し、コブラ及び藤は轉載の爲めメナドに之を輸送す。

タラウル諸島 *Talaur*

タラウル (*Talaut, Talauer*) 諸島は東北方に横はれり。就中重なるものは *Karkeloug* (又は *Karekelang*) にして、延長三九哩幅員一五哩なり。本島の南方は二、三〇〇呎の高度に達せりと謂ふ。海岸は一般に峻嶒なれども、南方に於ては然らずして凡そ幅員一哩に亘り珊瑚礁之を縁取れり。 *Esan* 灣及び數多の江灣ありて錨地を給す。カルケロンは中間凡そ一哩の海峡によりて *Saitaban* 島と相分たるが、適諸島を呼ぶにサリバブーの名を以てすることあり、島民は小膽無害の半偶像信徒なりと謂ふ。諸島の産物はコブラ及び婦女子の製織に使用せる種々の纖維植物なりとす。

スキルバッド諸島 *Schildpad*

スキルバッド即ち *Togian* 諸島は東北半島のバンヂャン岬及び東半島のアビー岬との間に介在せ

るトミニー灣内に在りて、東西凡そ八〇哩に連亘す。主要の島々即ち *Talata Koh, Togian* 及び *Batu Daka* 等は實際に於ては單箇の島とも云ふべく、中間の通路は淺くして航通困難なり。バトゥ・ダカ一は殆んど無人、他島は丘陵多くして森林濃密なり。爾餘の諸島と孤立せるものは活火山を有する *Usana* (*Nangona* とも云ふ) 島なるが、火山の麓地は甚だ肥沃なり、其數約二、〇〇〇を算せる島民はココ椰子樹の栽植 *Mulo* と稱へて七面鳥の一種たる鳥類の卵子を採集し、又蠔龜及び海參の漁獲を生業とせり。

バンガイ群島 *Banggai*

バンガイ即ち *Peling* 叢島はセレベスの東半島沖に在りて政治的にはターナテ州に所属す。四箇の主要島は即ち *Peling, Banggai, Labobo* 及び *Banggulu* なり。皆住民あれどもペリン島内の一部を除けば全く未開なり。ペリンは屈曲甚だしく、且多山にして樹木亦多し。多數の江灣ありて錨地をなせども、爾餘は悉く暗礁ありて近接を妨ぐ。群島の人口は凡そ二〇、〇〇〇を算し、沿岸には回教徒の混成族あり、奥地には未開の偶像教徒ありて他民を回避せり。

スラ諸島 *Sula*

スラ諸島は前記叢島の直東に位し、等しくターナテ州に所属す。就中 *Talabu, Mangola* (*Mangoli*) 及び *Sula Besi* の三島は可なり大なれども爾餘は皆小なり。前掲の二島は *Lifamatula* と共に一連脈

を形成し東西凡そ一三五哩に亘れり。三者共に高くして多山且つ森林濃密なれども人口疎薄なり。最大島たる *Falindu* は未開なりと云ふ。島内三、〇〇〇乃至四、〇〇〇呎の山嶽を有し亦數多の温泉あり。中央島たる *Mangola* は延長六五哩にして狭小且つ概ね高く其最高地點 *Busa* 山は西方に聳ゆ。東部島たる *Rifumatoula* は無人なり。前記の諸島に比し更に重要なるは南方に在る *Sulawesi* にして人口稠密に且つ良く耕作せらる。

總人口凡そ二〇、〇〇〇を數へ、其約半數は回教徒にして海岸に住居し、亦半數は偶像教徒たる *Alfaria* 人にして奥地に住せり。後者は海岸に近づき若くは回教徒たる住民と混交すること稀に其最も多數なるはタリヤブーなりと云ふ。米は之を栽植すと雖も主として租税の支拂及び織物との物々交換に之を使用す。主要食物は *Sulawesi* 島に於ては玉蜀黍又マンゴラ及びタレヤブに於てはサゴナリ。ココナット椰子は全諸島の海岸に成育し、コブラは即ち主たる輸出品なり。土民は諸島に産する優良なる木材を以て可なり大型の航船を建造せり林産物としては亦木蠟ダマシ護膜及び籐あり。品質劣種の石炭は *Sulawesi* 島に之を産出す。*Sulawesi* 島の女子は蓆、及び輸入綿絲を以てサロシを製織す同島は本群島の主要港にして錫地たる *Sana* を有せり。

セレベス東南半島沖の諸島

本叢島の最要なるは *Kalaena* (*Kubaina*), *Baton*, *Wuna* 及び *Wowoni* にして之等は *Tipiro* 及び

Wowoni 兩海峡によりて半島と分たれ兩海共に危険なり。ウーナ及びブトンの中間に在るブトン海峡は甚だ狹隘なれども、其の近海に限用せる小土舟によりて通航し得べし。ブトンは延長一〇〇哩にして其最廣部分に於ける幅員三五哩なり。島の中心に沿ふて高度六〇〇乃至七〇〇呎に及べる石灰石丘陵の一脈走れり。本島は幾多錫地を有すれども而かも危険多し *Kulitana* 及び *Dwai Bay* 稱する一大灣其東側に透入す。人口は凡そ一〇、〇〇〇を以て算し、土民は土舟を建造し蠍龜、眞珠及び鮫鱈を採集す。主たる町はブトンにして *KPM* 社の船舶寄航す。主要輸出品は木材 *Casipini* 油、棉花、珈琲、獸皮、アガル・アガル海草及び蜂蜜、又輸入品は綿絲、米、阿片、鐵器及び陶器なり。ウナ島は丘陵多くして丘地は稍南北に走れり。島内貴重なるチーク林を有し、又ブトンに於けると等しく棉花を栽培す。カバイン島は一部石灰炭亦一部火山性丘陵を以てなれり。本叢島の諸島は未だ多く探險せられず。

サライール島 *Salajer*

Salajer (*Salajer*, *Salajer*, *Salajar*) 島は延長五〇哩幅員八哩にして *Sulawesi* の南方山嘴に於ける東部山脈の延長なり。島内二、〇〇〇呎に達せる山脈によりて横斷せらる。同山脈は東側に於ては峻しく海面に落下し、亦西方に於ては徐に平野となりて横はれり。河川は纔に土舟によりて航するを得るのみ。

本島は人口多く且つ繁榮なり。住民は主としてマカッサー人にして其數七五、〇〇〇以上を算す。サライルル人は由來大膽なる船乗にして、皆各自の土舟を建造し且つ之をセレベスに於て販賣せるが故に、サライルル、及びマカッサー、ボンタイン、シンチャイ間には常に土舟の往來行はる。女子は優良なるサロンを縫製し、亦男女共に帆布を作れり。西海岸に於ける沃野は特に棉花栽培に専用す。雖も、亦或程度にマカッサー市場の爲に煙草、マニラ麻及びココ椰子の栽植にも之を充て、且つ少許の洋藍、珈琲及びスペイン胡椒等亦栽培せらる。米、大麥、及び玉蜀黍を栽植すれども、地方的需要を滿すにたるべき米を産せず。沼地には魚池及び鹽田あり。海濱には蠍龜及び海參の産あり。

良道ありて西海岸の全延長に亘れり。Salajer (Bentang 及び Pangsilang), Padang 及び Tile-Tile 等には日々市場開かる。本島の主要輸出品はコブラにしてマカッサー油及び蓖麻子油は輸出品として製出せられ、鮮干兩様の魚類も亦之を輸出し、且つ鹽も亦重要な貿易品たり。KPM社の船舶サライルルに寄航す。本島の隆昌はマカッサーとの近接に負ふものなり。

ス。ペ。ル。ム。ン。デ。群。島。Spermdude

本群島はセレベスの西岸沖即ちマカッサーの北方にありて沿海比較的淺し。低島多くして珊瑚礁によりて圍繞せらる。ココ椰子は生育すれども、砂地なるが爲に他の産物に適せず。

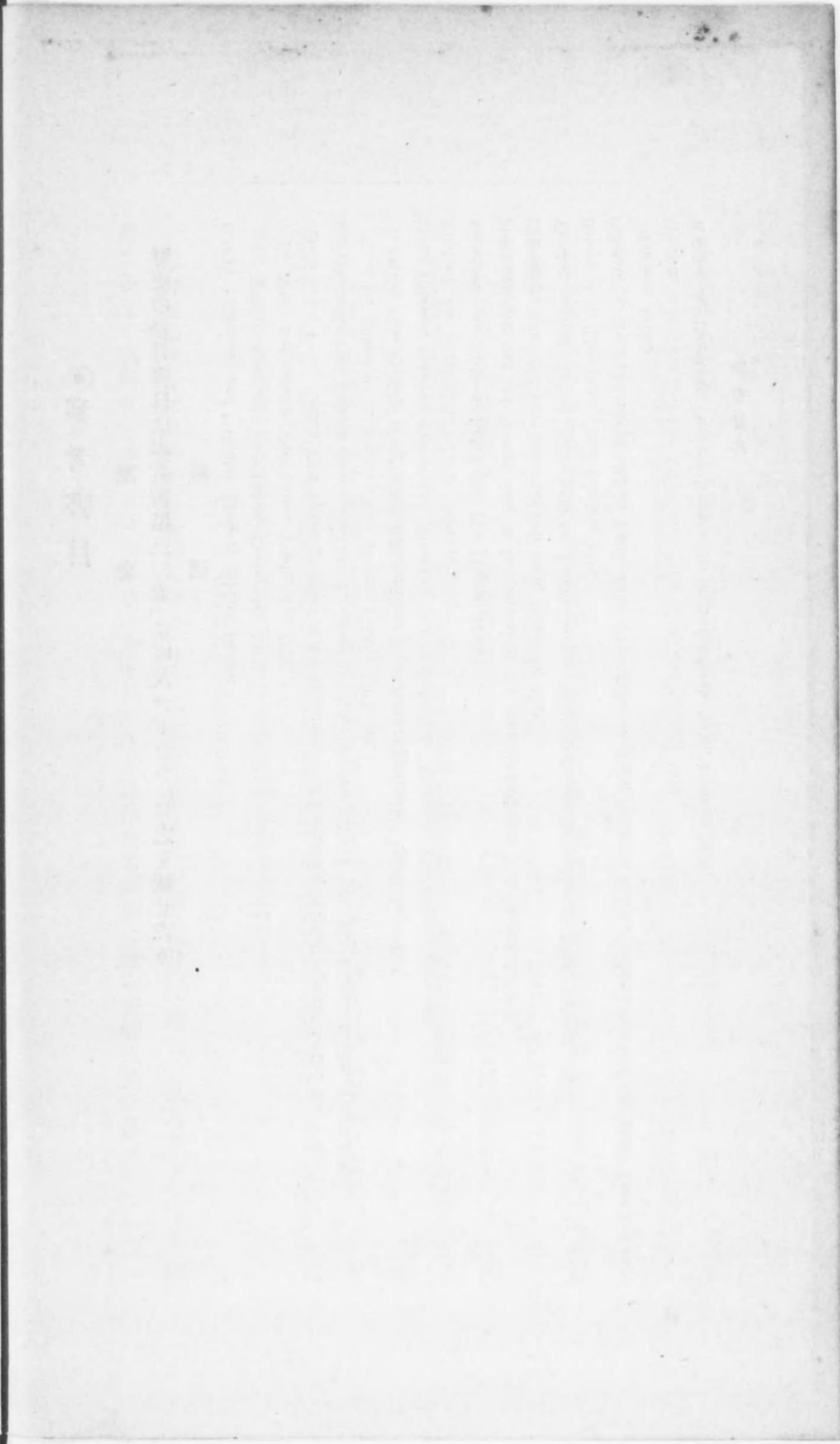
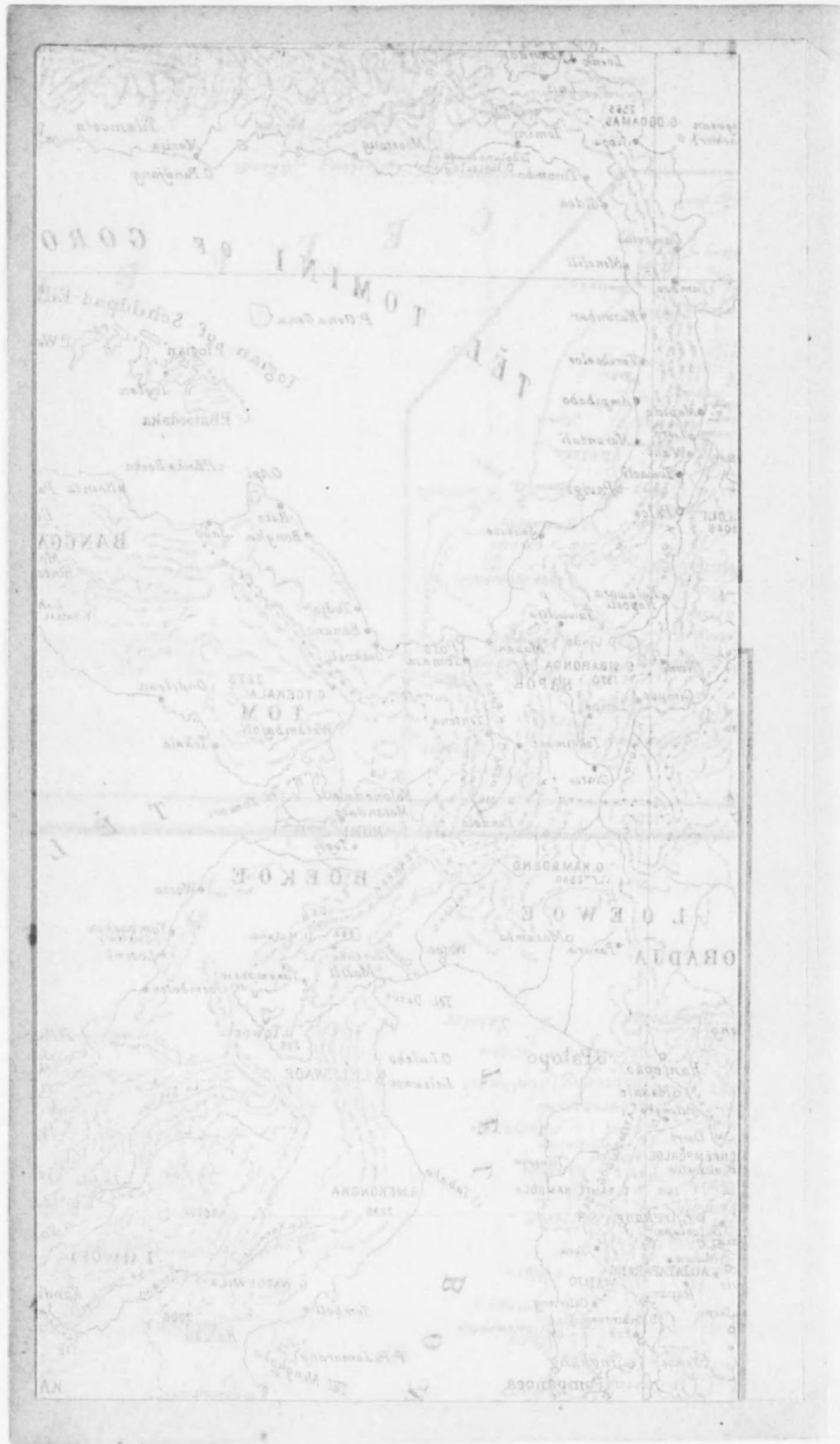
◎参考書目

歴史

歴史の参考書目は本叢書第三〇卷「爪哇及マドゥラ」に之を載せたり

經濟

- British Diplomatic and Consular Reports, Annual Series:
 No. 5083. Netherlands East Indies, Trade, &c., 1912.
 No. 5525. Netherlands East Indies, Trade, &c., 1913.
 Cotton Goods in the Dutch East Indies (United States Department of Commerce, Special Agents' Series, No. 120.)
 Encyclopaedie van Nederlandsch-Indie. (1st ed., edited by P.A. van der Lith.) 4 vols. The Hague, Leiden, (1895-1905.)
 (2nd ed., edited by J. Paulus.) The Hague, Leiden, 1917, &c.
 Handboek voor Cultuur en Handersondernemingen in Nederlandsch-Indie. Amsterdam, 1917.
 In-en Uitvoer, Handels-Economisch Weekblad voor Nederlanden Ko'lonien. The Hague, 1876, &c.
 Jaarboek van Nederlandsch-Indie. Batavia, 1916.
 Jaarlijers van Nederlandsch-Indie. The Hague, 1914.
 Mededeelingen van het Bureau voor de Bestuurszaken der Buitenbezittingen. The Hague. 1904-14.
 Regerings Almanak voor Nederlandsch-Indie. Batavia, 1916.
 Verlag ontrent Hadnel, Nijverheid en Landbouw van Nederlandsch-Indie gedurende 1914. Batavia, 1915.
 Brown, J.M. The Dutch East. London, 1914.
 Caboton, A. Les Indes neerlandaises. Paris, 1910. (Translated as Java, Sumatra, and the other Islands of the Dutch East Indies. London, 1911.)
 Walcott, A.S. Java and her Neighbours. New York and London, 1914.
 Wright, A. Twentieth Century Impressions of Netherlands India. London, 1909.



MINAHASA
Schaal 1:1250.000.



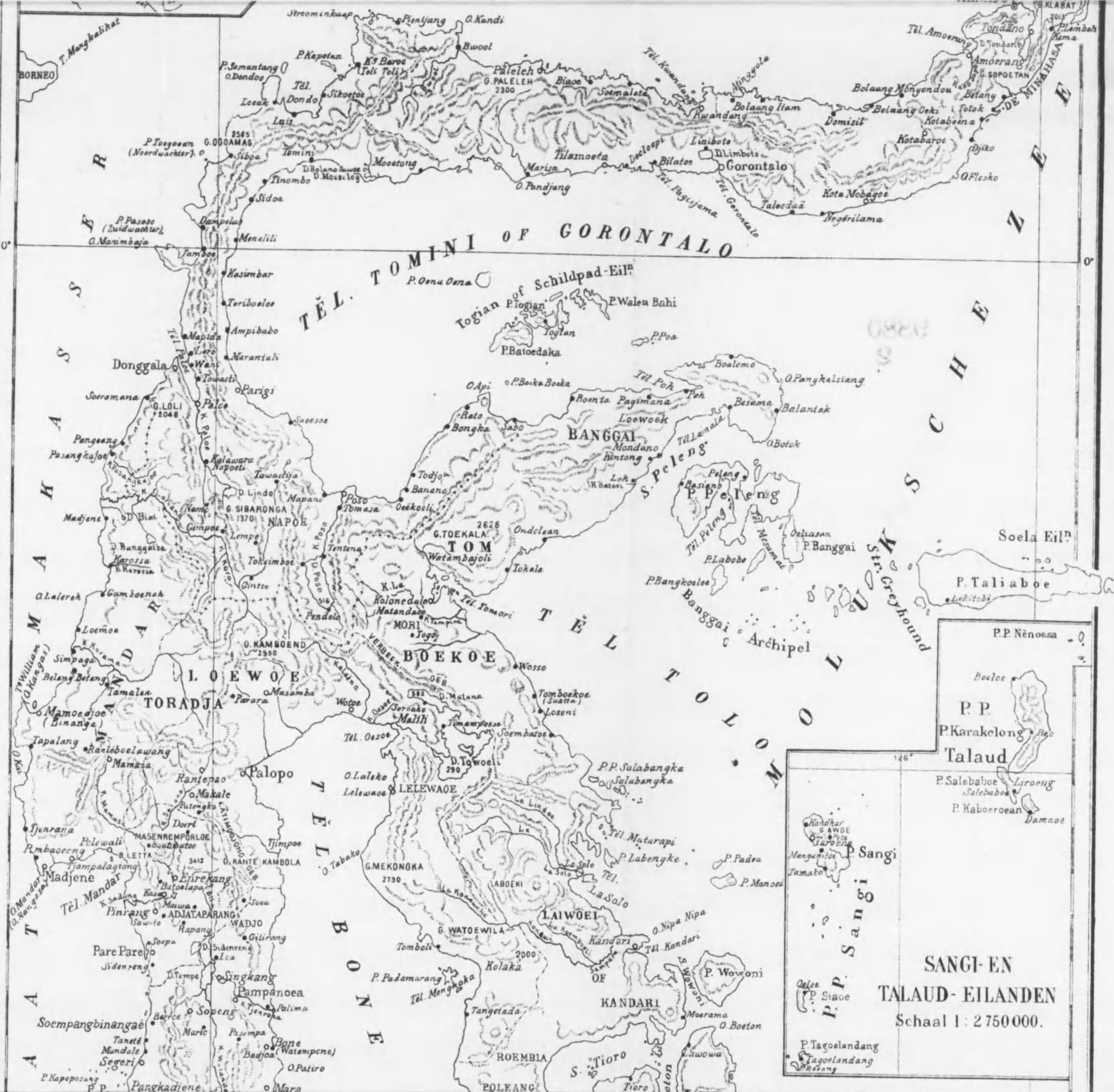
スベレセ

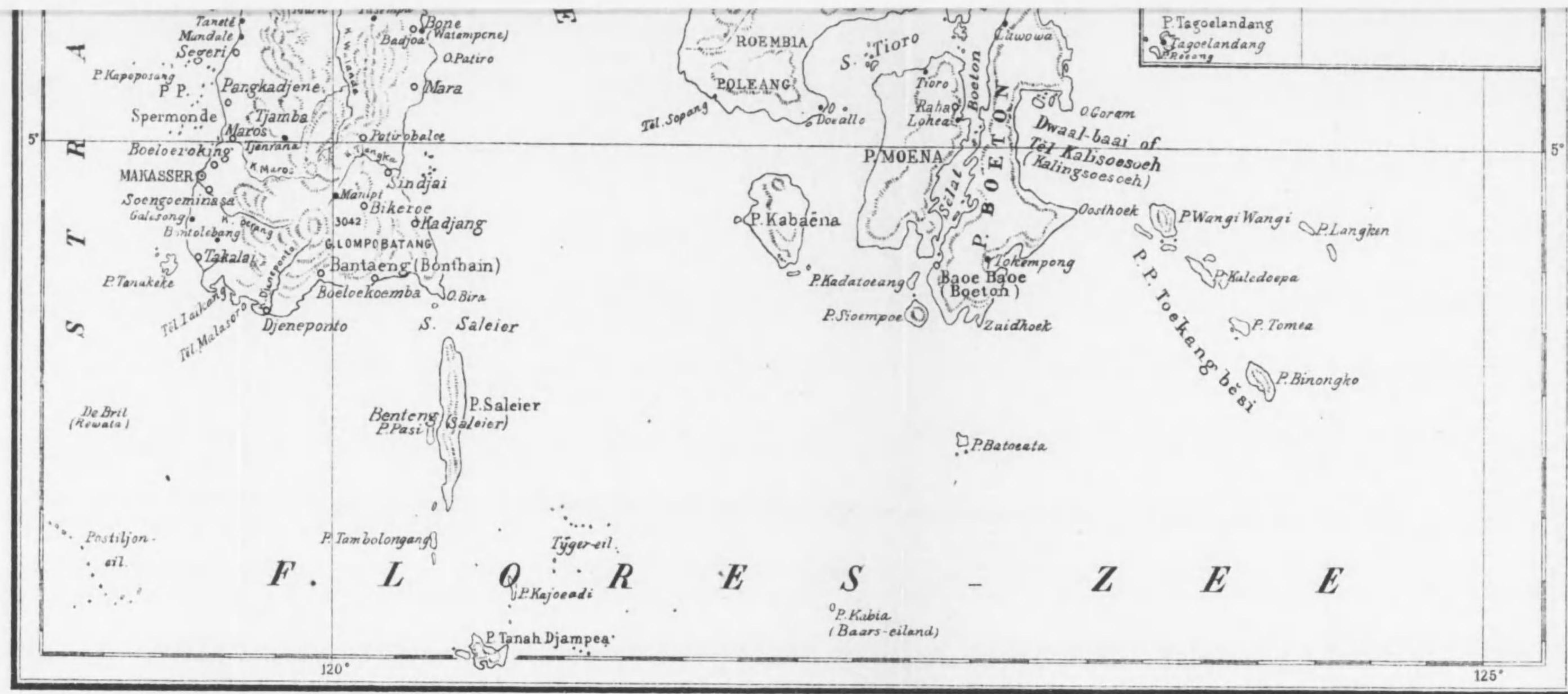
一之分萬五十七百二尺縮

C E L E B E S

Z E E







4678

製複許不

大正十二年十二月十三日印刷
大正十二年十二月十五日發行

以印刷代筆寫

譯者 遠山靜二

發行者 伊藤憐之助
臺北市榮町三丁目九番地

印刷人 小塚兼吉
臺北市榮町二丁目十二番地

印刷所 小塚印刷工場
臺北市京町一丁目四十三番地

發行所

臺灣總督府內
南洋協會臺灣支部

構內電話八九番

大木操氏

寄贈



9880

2



南洋叢書

卷1	比律賓群島に於ける護謨栽培	円 .15
2	蘭領スマトラ島の護謨園	.20
3	比律賓群島の開發	.15
4	暹羅國の稻作及精米業	.45
5	緬甸事情	1.00
6	タロカ地方開墾事業	.50
7	比律賓群島に於ける古々椰子	.75
8	蘭領東印度に於ける漚瀝大要	1.15
9	比律賓群島に於ける農業の發達と對米貿易の關係	.30
10	海峽殖民地に於ける苧麻栽培	.35
11	蘭領東印度の教育制度	1.00
12	新西蘭の羊業概況	1.20
13	勞働者の理想郷たる濠洲	.30
14	蘭領東印度に於ける實業教育	.45
15	比律賓と棉作	.50
16	比島タバオの富源と其開發	.35
17	ブートン島農業經營論	.80
18	比律賓のプリ椰子	.25
19	蘭領印度の經濟	.80
20	比律賓群島の米作	.80
21	キヤッサヴァの栽培	.50
22	石油生産地としての東方諸國	.30
23	ウツト總督の教書	.55
24	サイザル及龍舌草	1.50
25	布哇に於ける木瓜	.50
26	蘭領東印度の産業	1.20
27	布哇の鳳梨事業	1.50
28	一九二一年度蘭印貿易大觀	1.80
29	佛領印度支那	1.50
30	爪哇及マドウラ	1.00
31	世界珈琲大觀	.30
32	スマトラ	1.00
33	セレベス	.80

臺灣總督府内
南洋協會臺灣支部

越村長次編	南洋渡航須知	特價金 二圓 (送料八錢)
越智有編	馬來語讀本	定價金 一圓二十錢 (送料共)
櫻井芳次郎譯	世界的食糧の給源	實費金 三十五錢 (同)
鈴木進一郎譯	大戰前後 甘蔗甜菜兩糖の競爭	實費金 一圓二十錢 (同)
村社新譯	英國穀物生産條例解説	實費金 六十錢 (同)
岩木龜彦著	最近三十年間に於ける日本の砂糖及其製品に關する調査	定價金 一圓八十錢 (同)
小森徳治著	比律賓史	特價金 一圓五十錢 (同)
越村長次譯	世界市場に於ける羊毛	實費金 八十錢 (同)
安重龜三郎著	南支汕頭商埠	定價金 八十錢 (同)
加藤清之助著	馬日辭典	定價金 二圓 (同)
越智有著		定價金 四圓 (同)

發行所
臺灣總督府内
南洋協會臺灣支部

終